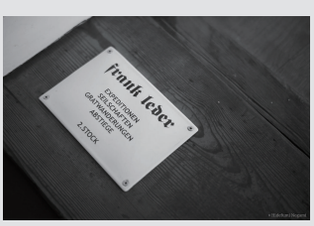
frank leder

A STORY BEHIND THE GARMENTS



ドイツの文化と職人技を纏う

服は、体を守り、暖かく保つためだけのものではない。その日の気持ちや、他者に伝えたいことを表現し、自分自身を少し良い気分にしてくれるものでもある。フランク・リーダーの服には、そんな考え方と、ドイツの文化や歴史に根ざした物語が息づいている。



ABOUT THE DESIGNER

ドイツ・ニュルンベルク出身のデザイナー、フランク・リーダー。セント・マーチンズでファッションデザインを学び、2001 年に自身のブランドをスタート。以来、ドイツの素材、技術、土地に根付いた物語を手がかりに、独自のコレクションを発表し続けている。

A DIFFERENT WAY OF MAKING

古い生地やヴィンテージのパーツ、地域に受け継がれてきた仕事や暮らし。フランクはそうした背景を丹念にたどり、服づくりの着想へとつなげていく。新しさだけを追うのではなく、すでにあるものの価値を見つけ直し、次の時代へ手渡す。一着の中に土地の記憶や人の営みを織り込むことが、彼のものづくりの大きな魅力。

「すべての服には、物語がある。」

服の背景を知ることは、デザインの理由を知ることでもある。どこで生まれた素材なのか、誰が使っていたのか、なぜそのディテールが選ばれたのか。その物語に触れることで、服は単なる新しい商品ではなく、長く付き合っていく存在へと変わっていく。

MATERIALS WITH HISTORY

歴史を受け継ぐ素材

1960 ～ 70 年代、西ドイツでは有事に備えた地下シェルター用のベッドシーツが大量に用意されていた。使われないまま保管されていた生地を見つけ、シャツやパンツへと再生する。役目を終えた古い布に新たな用途を与え、現代の衣服としてよみがえらせる。素材が持つ時間や背景までをデザインの一部として捉える、フランクの探究心が表れている。

DETAILS THAT MATTER

最初に触れる、小さなパーツ

「ボタンは服を着る時、脱ぐ時に最初に触れるもの。だからこそ美しくなければならない」。フランクはドイツ各地のフリーマーケットや古い仕立て屋を訪ね、ヴィンテージボタンを集める。ココナッツシェルやホーンなど、素材も形も異なるボタンには、それぞれの時代や持ち主の気配が残る。目立たない小さなパーツにも妥協しない姿勢が、一着に奥行きを与えている。

STORIES FROM GERMANY

現地で知り、服にする

運河で石炭や木材を運ぶ船乗り、長い旅を続ける大工職人。フランクは実際に現地を訪れ、そこで働く人々と時間を過ごし、話を聞く。土地の風景や仕事の手触り、人々の暮らしを自分の経験として受け止め、服づくりへとつなげていく。